塚田好宣編 ②「パットのアドレス」

この“お先に！”の動きでひらめいた

'23 シニアプロが教える 上達のツボ②

右斜め上から見て 「お先に」パットで視界良好

シニアツアーを主管する日本プロゴルフ協会（PGA）の協力によるレッスン企画「シニアプロが教える上達のツボ」。今年の第2回は前回に続き、レギュラーとシニアの両ツアーで優勝経験のある塚田好宣（53）＝リガーレ＝が会場です。思い切ったアドレスの仕方を教えます。（取材構成・伝昌夫）

ショットにも影響 カブサイドの視野を広げる

ゴルフでスコアに直結するのは、何と言ってもパットです。ショットが多少曲がったり、飛ばなかったりしても、パットがうまく入ってくれればスコアはまとまり、気持ち良くプレーできます。しかし、パットに不安を覚えると、ショットにまで影響を及ぼします。ショットパットを外してしまったときのことを思い出してみてください。次のホールのティーショットは、快音を奏でられなかったのではありませんか？それとほぼ反対に、難しいパットを決めたときは、次のホールのティーショットでいいショットを打てたことが多いはずです。

実は僕もキャリアの大半振りなかったことがありました。入れてる外してるの距離が決まらなくなってしまった…そんなとき、外したパットの後に“お先に！”でカップインさせたときに、ひらめいたのです。

ボールを右斜め上方から見るように構えたら、パターヘッドを振り出す方向の視野が広がるかもしれない。“お先に！”パットのアドレスを再現するために、普通にパットを打つときもボールの位置をカップ寄り、つまり左足寄りに変えてみたのです。

目標物に向けて視野を広げると集中力が高まる

歩測で距離感把握

ボールをカップインさせることがパットの“使命”ですから、その目標物であるカップに向けての視野を広げた方が、集中力は高まります。狭い視野では暗闇の中のカップに向けてパットするのと同じです。

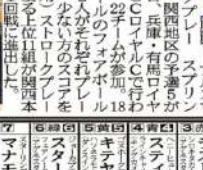
また、スタート前には練習グリーンで歩測して5歩、15歩の距離感の物差しを作っておきましょう。ショートのときに目標地点までの距離を確認するのと同じで、パットもカップまで歩測し、距離感の物差しを生かす。これがパット数を減らすことに結びつきます。

また、構えたときに両目の真下にボールをとらえることを基本のアドレスにしていたのですが、体とボールとの間隔をあけて広げ、ボールの位置を左側のラインよりも外側に置くようにしました。

この“お先に”パットを応用したアドレスで構えてみると、ボールの前方の視野が広がり、ライン上に定めたボールのフォアボールのスポットに向けてボールを打ち出しやすくなりました。

「パットにはメソッドがない」という格言があります。パット名手が10人いれば、10人とも構え方も打ち方も違うように、自分にとって最適なアドレスやストロークを見つけ出すことが、パットには求められるのではないでしょうか。

塚田 好宣（つかだ・よしのぶ）
1969（昭和44）年8月24日生まれ、53歳。千葉・鎌ケ谷市出身。14歳でゴルフを始める。東海大を中退して渡米し、ニューメキシコ諸軍士官学校へ。卒業後にSEルイジアナ大に入学したが中退し、豪州に渡って94年にプロ転向。99年に日本のプロテスト合格。レギュラーツアーでは43歳だった2013年「東建ホームメイトカップ」で優勝。19年からシニアツアーに参戦、昨季賞金ランキング8位（約1600万円）。178㌢、78㌔。



41st フジサンケイ レディス クラシック

橋添穂の春 2度目の切符！姉妹タッグでリベンジ誓う

4姉妹の末っ子

21日に開幕する「フジサンケイレディスクラシック」の主催者推薦選考会（マンデー）が17日に静岡・川奈ホテルGC富士C（6、7、1、2、3、4、5、6、7、8、9、1、2、3、4、5、6、7、8、9番）で行われ、上位11人が本戦の出場権を獲得。プロ3年目の橋添穂（みのり、22＝国際スポーツ振興協会＝は71で回り、7位で2度目の出場切符をつかんだ。「途中までパーが並んでいたので、伸びろだけは全然いっていません。ギリギリまで粘りたい。姉妹タッグで勝ちたい。姉妹タッグで勝ちたい。姉妹タッグで勝ち